

認定NPO法人

# 国境なき子どもたち

2022年度活動報告書

Annual Report 2022

## —会長からのご挨拶—

ご支援者のみなさま

日本でもほかの国々でも、生活のありようにいろいろな工夫の求められた、そして変化を受け入れなければ過ごせなかったこの数年でした。生活の手順も、学びの進め方も、あらゆる部分に創意工夫が必要でした。先の読めない日々、そのような中でも子どもたちはたくましく、自らを周囲に適応させているのに感心しました。このむつかしい状況でも KnK の日本にいるスタッフは、現地スタッフとの密接なコンタクトを取りながら、子どもたちにとっての最善の方法を探り続けていました。そしてそのきずなを、途切れることなく、むしろより強いものとしてきました。しばらく触れ合うことのできなかった子どもたちや現地スタッフとの再会で、それまでと同じ、いやそれ以上に、温かい心の通ったサポートを続けることができている。

2022 年、「国境なき子どもたち」は設立されて 25 年を迎えました。その間、何人の少年少女との出会いを持ってきたことでしょうか。私たちと「ともに成長する」ことを選んでくれた多くの若者たちがいます。その心のつながりには感謝してもきれない思いです。その中でも昨年のニューズレター（『KnK 通信第 108 号』）に書かれていたバングラデシュの若者ココンの手紙は、胸にズーンと響き、しめつけられる思いがしました。小さい時から路上で暮らしていた少年が、KnK のドロップインセンターを知り、12 歳のころから通って来ていました。ただ生命をつなぐことのみを追われていた子どもの心に、センターでの日々は、生活や健康や学びも含め、ゆとりのある心と前に進む力、夢を持つきっかけを与えてくれる場所でした。その彼がこの頃センターに来ない、どうしたの？

現地の成人年齢である 18 歳になった彼は友人と部屋を借りて、それまでのポーターの仕事をやめ、三輪タクシーの運転手をしながら自分の将来に向けてきちんと働いていました。ココンの身も心も成長した姿には胸がドキドキしてしまいます。

「大人になったのでセンターにはもう通っていません。でも、センターのスタッフのことをいつも思っていますし、時々は...」。この彼の成長の後ろにはいつも温かくこの子たちを見守ってくださる皆さまのお姿がしっかりと見えています。心からの御礼を申し上げます。

感謝とともに、彼に続く多くの子どもたちとともに支え続けてくださいとお願い申し上げます。

2023 年 4 月 27 日

認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

会長 寺田朗子



## 目次

- 1 会長からのご挨拶
- 2 国境なき子どもたち (KnK) のビジョン&ミッション&バリュー
- 3 KnK の教育支援活動
- 4 世界の子どもたちをめぐる課題
- 6 2022 年ふり返り
- 10 現地からの声 (Voices from the Fields)
- 12 I. 各国での支援活動
  - カンボジア/フィリピン/バングラデシュ/ヨルダン (シリア難民支援) /
  - パキスタン/パレスチナ/日本 (東日本大震災の被災地における復興支援)
- 21 II. 国内教育プロジェクト・広報活動
  - 友情のレポーター/友情の 5 円玉キャンペーン/メディア/イベント
- 24 III. 団体組織
- 25 IV. 会計収支 (2022 年度収支報告)
- 26 V. プレスレビュー
- 28 VI. 謝辞
- 30 VII. 沿革

# 国境を越えてすべての子どもに**教育**と**友情**を

## ビジョン (KnK が目指す社会)

KnK は以下の社会をつくることに貢献します。

- ・子ども一人ひとりが教育を受け、夢を描ける社会
- ・子ども一人ひとりが尊重され、安心して健やかに成長できる社会
- ・子どもたちが互いの違いを認め合い、友情を育み、共に成長できる社会

## ミッション (KnK が果たす使命)

KnK は、ビジョンを実現するため、以下を使命とします。

- ・教育や職業訓練、自己表現の機会を提供し、子どもたちの将来の選択肢をひろげ、その健全な社会参加を後押しします。
- ・貧困や紛争、災害で困難な状況にある子どもたちに寄り添い、その成長過程にふさわしい生活を送れるよう手助けします。
- ・日本の子どもたちが、世界の子どもたちの抱える現状を知り、多様な価値観を学び、互いに支え合える次世代を育成します。

## バリュー (KnK が大切にすること)

KnK は、子どもと子どもに関わるすべての人と共に成長するために、以下のことを大切にします。

子どもたち: 出会った子どもをあるがまま受け入れ、その可能性を信じ、大切な存在として向き合います。

支援者: 支援者と子どもをつなぐ架け橋となり、子どもたちの声や成長の様子を届けます。

現地パートナー: 事業を共に実施する現地パートナーの価値観・経験を尊重し、信頼関係を築きます。

市民社会: 支援金を有効活用し説明責任を果たすよう努め、世界の子どもたちの現状について情報発信します。

国境なき子どもたちで働く仲間: 主体性と向上心を持って考え行動し、子どもたちの未来のために協力し合います。

## 共に成長するために

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

世界を変えるための17の目標



# KnK の教育支援活動

## 教育機会の提供

貧困や紛争など、どんな困難な状況にあっても、すべての子どもが教育を受け将来の夢を描けるよう、教育の機会を提供します。さらにカンボジアやフィリピンでは、自身で努力し学業を続ける意志のある生徒に対して、奨学金を給付します。パキスタンでは、学校環境の整備を通じて、特に女子教育の普及と就学率向上を目指します。

## 子どもの保護

居住型の自立支援施設「若者の家」(カンボジア/フィリピン)やドロップインセンター(バングラデシュ)を運営して生活を支援し、子どもが過去の経験乗り越え、学業に励み、友情を育む居場所を提供します。子どもたちが自尊心を高め自信と勇気を持って生きていけるよう、スタッフが積極的な言葉をかけ寄り添います。

## 職業訓練

教育を十分に受けてこられなかった若年層女性や、中途退学して職業技能や生活能力を十分に持っていない若者(カンボジア)を主な対象に、将来の収入と生活の質の向上をめざして社会のニーズにあった職業訓練を実施し、会計やライフスキルなどを学ぶワークショップも行って、就職や開業をサポートします。

## 自己表現の機会の提供

音楽や演劇、ダンスや図画工作などの活動を積極的に行って、子どもたちが楽しく学び、「学校に通いたい」と望むきっかけをつくります。またこれらの活動を通じて、子どもたちが精神的な落ち着きを取り戻し、自分の能力や可能性に気づくチャンスを提供します。

## 相互理解

パレスチナをはじめ、シリアやイラクなど周辺地域から逃れて来た人が多く暮らすヨルダン社会において、チームで協力し合う集団活動を行い、お互いを理解し合う機会をつくります。また、日本にいる子どもたちが活動地を訪問し、同世代の子どもたち取材し、帰国後は取材で学んだことを広く伝える「友情のレポーター」事業を行います。

## 地域への働きかけ

子どもたちが学業を続けるには、保護者など周りの大人が子どもを労働力とみなさず、子どもたちの学習を長期にわたり応援する意識の変化が不可欠です。教育の普及、家庭への復帰、子どもの権利実現のため、保護者や教育関係者、地域住民を啓発し、一緒に子どもを守り育てる関係を構築します。



# 世界の子どもたちをめぐる課題

## 4 難民 - ヨルダン -

- ・難民キャンプに暮らし続けるシリアの子どもたちへの教育機会の提供
- ・さまざまな国籍の子どもたちの社会性育成と向上

ザアタリ難民キャンプが開設されてから 2022 年で 10 年が経過し、今なお約 8 万人のシリア人が暮らしています。キャンプ内の公立学校は授業時間が短いなどの理由で、生徒の学力が慢性的に低く、さらに一年半に及ぶコロナ禍のオンライン教育を経て、学力だけでなく学習意欲もさらに低下しています。また、コロナ禍により若い世代の就労機会が失われていることから、10 代での早期結婚を選択せざるを得ない子どもたちも男女ともに見られます。

ヨルダンは、パレスチナ、シリア、イラク、スーダンなど周辺国から難民、移民を受け入れ続ける国で、多様な背景を持つ人々を理解し、互いに違いを受け入れられる社会づくりが不可欠です。子どもたちが、このような社会で生きていく力をつけるには、基礎教育だけでなく多様な学びを経験する機会が大切ですが、保護者や地域では、学校が社会性を育成する場でもあるという理解が十分に進んでいません。

(1) 通常のヨルダンの公立学校(一部制)は授業一コマあたり 45 分、二部制でも 35 分である一方、キャンプ内の学校は 30 分と短い



## 4 教育のジェンダー格差 - パキスタン -

### 教育のジェンダー格差 - パキスタン -

- ・女子の教育へのアクセス強化と、女子教育に対する地域の理解促進
- ・学校環境整備の継続と質の向上



パキスタンにおけるジェンダー問題は特に顕著で、ジェンダーギャップ指数の総合順位は世界 146 カ国中 145 位、中等教育就学率は 124 位です<sup>2</sup>。中でもハイバル・パフトゥンハー州は、青少年(15~24 歳)の識字率が男子 85%に対し女子が 49%<sup>3</sup>と大きな格差があります。さらに同州では 5~16 歳の子ども約 210 万人が非就学で、その約 40%が 10~16 才の女子にあたり、特に農村部の女子がアクセスできる中学、高等学校が圧倒的に不足しています<sup>4</sup>。

また、KnK が活動する山間部の地域では早期結婚の慣習や不平等な社会規範が依然として残っており、教育機会の男女格差を加速しています。女子生徒を含め、教育に関わる全てのステークホルダーと一緒に議論し、女子の進学に対する意識改革が地元から湧きあがるよう働きかけが必要です。

(2) Global Gender Gap Report 2022 (World Economic Forum) . (3) Pakistan Social & Living Standard Measurement Survey(PSLM) 2019-2020 . (4) Khyber Pakhtunkhwa Education Sector Plan 2020-25

## 4 統治の圧力 - パレスチナ -

- ・子どもたちの精神的な落ち着き、社会性の向上
- ・情操教育を提供できる学校教員や子ども支援センター職員の能力強化



パレスチナ自治区の都市ジェリコとジェリコ県北部のヨルダン渓谷は、イスラエル軍による家屋捜査や、パレスチナ人とイスラエル兵の衝突、イスラエル人入植者による嫌がらせなど、占領に関わる問題を多く抱えています。

さらにヨルダン渓谷はパレスチナの中でも家族のつながりが特に強く、伝統的な暮らしの下、保守的な考えを持つ人も多いため、子どもが抱える課題が外に出にくい難しさも抱えています。地域の子どもたちは閉塞感やストレスを抱え、時に暴力的になり、学校をドロップアウトして早くから職に就く子どももいます。

パレスチナの若者は、イスラエル政府による占領政策の中、移動制限や日々の暴力を目の当たりにし、自分の希望が叶えられないことから虚無感を抱き、占領に対する対抗の手段として、時に武装化し、イスラエル兵や入植者に対して攻撃的になるケースもあります。



## 貧困 - カンボジア -

- ・極度の貧困や暴力などが原因で家族と暮らせない青少年の保護と自立支援
- ・貧困に苦しむ若年層女性の収入創出活動とエンパワメント
- ・中途退学した若者の職業訓練と就労支援

カンボジアでは孤児、貧困、家庭内暴力の背景を持つ子どもが多く、その脆弱な状況にある彼らを受け入れる団体や機関はあっても、支援を必要とする子どもが後を絶たないため、思春期を迎えた青少年は施設を退所しなければなりません。自立する手段を十分に得られず社会に投げ出された若者たちは、以前と同じ脆弱な状況に再び陥ってしまいます。「若者の家」があるバットンバン州では、高校の総就学率が未だ 30%にとどまっています。

バイリン州では、貧困や交通手段の欠如などの理由により学校を中途退学する若者が多く、同州の退学率は中学生 17.4%、高校生 15.5%と高い水準となっており、また中途退学者の多くは将来の計画を立てることができずに不安定な雇用状況にあります。一方で、地域の若者を支援する体制は、予算や人材不足のため限定的なものになっています。

(5) Public Education Statistics and Indicators 2021-2022/ Ministry of Education, Youth and Sports



## 16 路上生活 - バングラデシュ -

- ・ストリートチルドレンの保護、衛生管理、成長や自立のための機会提供
- ・ストリートチルドレンが暮らす地域の住民への啓発活動

家庭の経済的貧困や暴力・育児放棄などが原因で路上生活をする子どもの数はバングラデシュ全土で 100 万人以上、首都ダッカだけでも 30 万人いるとされ、年々さらに増加していると言われています。2011 年の開設以来、KnK の「ほほえみドロップインセンター」に来所する子どもの数も減少していません。

路上生活は不衛生な住環境や栄養の偏った食事に加え、身体や衣類を洗う場所は生活排水などが垂れ流される河川であるなど、健康面に深刻な悪影響を与えています。さらに、善悪の判断力が育まれないまま周りに同調して危険な状況に巻き込まれることも珍しくなく、非行に走り、薬物や犯罪に手を染めるケースも少なくありません。

一方、子どもの人権に対し無理解な大人も多く、子どもたちの生活エリアを行き交う人々だけでなく、雇用主や警察までもが暴力をふるうことがあり、子どもたちは怯えながら路上で暮らしています。



## 子どもの権利の侵害 - フィリピン -

- ・虐待・育児放棄にあった子ども、ストリートチルドレン、法に抵触した青少年の保護と生活・教育支援
- ・スラム地域の子ども・若者への学習機会の提供



新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動制限が緩和され、観光業が復調し、フィリピンの 2022 年経済成長は当初予測よりも好調な 7.4%と見られています<sup>6</sup>。しかし、建設会社で働いていた方からは 2022 年 9 月まで建設業の仕事が見つからなかったという声が聞かれるなど、厳しい生活が続いており、さらに移動費、生活用品の価格高騰が人々の生活に影響を与え、学業継続への不安を口にする子どももいます。

2022 年 7 月にはマルコス大統領が新たに就任しましたが、ドゥテルテ前大統領が実施した「麻薬戦争」を続けることを宣言し、警察および政府機関による違法な武力行使は続けられました<sup>7</sup>。「麻薬戦争」では 2016 年 7 月から 2019 年 12 月までの間に 17 歳以下の子ども少なくとも 122 人が殺害され、さらに麻薬に関連した子どもの留置が激増し、拘置所は過密状態となり、虐待や拷問が蔓延しているとも指摘されています<sup>8</sup>。

(6) ADB Forecasts 7.4% Growth for the Philippines in 2022 | Asian Development Bank . (7) World Report 2023: Philippines | Human Rights Watch (hrw.org) . (8) New report reveals deliberate killings of children during "war on drugs" | OMCT

# 2022年ふり返り

## ◆8月に公立学校が再開。対面授業の休止期間は世界でも異例の長さ◆

### 「新学期がこんなに待ち遠しかったことはありません！」

フィリピンでは2020年3月10日にマニラ首都圏から順次、全国で休校措置が取られて以来、モジュール学習(\*)とオンライン授業の自宅学習が行われてきました。学習内容はこれまでのおさらいではなく、新しいことを基本的に一人で学んでいくスタイルでした。約2年という途方もなく長い自宅学習期間は、17歳以下に課された外出禁止令と相まって、孤独や退屈、寂しさや不安を感じてしまう、本当に難しいことの連続でした。

2022年8月から対面授業が再び始まり、「若者の家」の子どもたちも、軽食を準備し、教材でいっぱいになったカバンを持ち、制服を身に着けられることを心から喜んでいました。何人かはクラス委員にも選ばれました。責任感が増し、周りの感謝や信頼が自信につながり、勇気を持つことにつながりました。

(\*)モジュール学習・・・2020年10月にフィリピン政府が導入した学習方式で、冊子になった課題を保護者が1、2週間に一回の頻度で学校へ受け取りに行き、それらを子どもが家で取り組み、終わったら保護者が学校へまた提出に行く段取り。中には学校までの交通費がなく、保護者が課題を取りに行けなかったケースも少なくありませんでした。

## ◆各活動地で、スタッフが子どもたちの経験のために創意工夫◆

### 「子どもたちが新しい体験をできたことに、私も思わず涙ぐんでしまいました」

#### ◎バングラデシュ◎

2022年9月、「ほほえみドロップインセンター」の子ども38名を以前から熱望していた大型ウォーターパークへ連れて行くことができました。大小さまざまな水の滑り台で遊び、子どもたちは味あつたことのない高揚感に歓喜しました。



#### ◎フィリピン◎

外出禁止が長期化し「若者の家」の敷地内でしか過ごせなかった子どもたちのため、2021年にひき続き絵画、音楽、スピーチ、グループシェアリング、ディスカッションなど年間以前より多い305件のアクティビティを実施しました。



#### ◎ヨルダン◎

夏季アクティビティを対面では3年ぶりに実施しました。毎日男女各50人前後が、縄やフラフープを使った運動、ビーズアクセサリーやスライム作りなどの工作を楽しみ、閉鎖的なキャンプの中で過ごす長い夏休みを充実させました。



#### ◎カンボジア◎

家族の元を遠く離れ、将来の自立のため勉学や職業訓練に励む「若者の家」の子どもたちのため、毎年恒例の遠足の他、週末にサイクリングに出かけたり、映画を観に行くなど、不定期で小さなイベントを企画し、入居する仲間たち同士で楽しい時間を過ごせるよう心がけています。



コロナの感染拡大は子どもの幸せを脅かす理由にはならない！

↑「子どもの権利」の実現のため、フィリピンの子どもがイベントで発表したスローガン

## ◆パキスタン／女子の中等教育へのアクセス拡大と質の向上◆

### 支援対象3校の純就学率が平均31% → 85%に改善!

女子が通える学校が圧倒的に不足しているハイバル・パフトゥンハール州3郡の農村部において、中学・高等学校3校の校舎建設を支援しました。これまで民家の一角や校庭、廊下で授業を受けたり、入学を断られていた女子生徒が、安心安全な環境で学習できるようになりました。その結果、女子中学・高等学校の純就学率が平均31%から85%に改善し、退学率は平均35%から2.7%に減少しました。

2010年以來Knkがパキスタンで建設にたざあつた学校は、2022年で計86校に増えました。

支援対象3校の純就学率



## ◆ヨルダン／社会性育成を主眼に置いた特別活動の実践と体制構築◆

### 特別活動が成果を上げ、校長先生が異動先の学校でも導入を検討へ

Knkは2018年から、ヨルダンの学校現場において日本の教育活動の根幹である「特別活動」を導入すべく活動を続けています。日直や学級会、縦割り班活動を行って、子どもたちからは「クラスの雰囲気が変わり、お互いに助け合い、協力する場面が増えた」「与えられた仕事をやり切ることで自信がついた」などの声があがりました。

子どもの社会性について前向きな変化を目にしたことで、教員自身の意欲も向上しました。特別活動を実践してきた学校の校長先生が、異動先の学校でも特別活動を導入したいとの申し出があるなど、活動を自主的に継続する意志を確認できました。

## ◆カンボジア／収入創出活動と若年層女性のエンパワメント事業◆

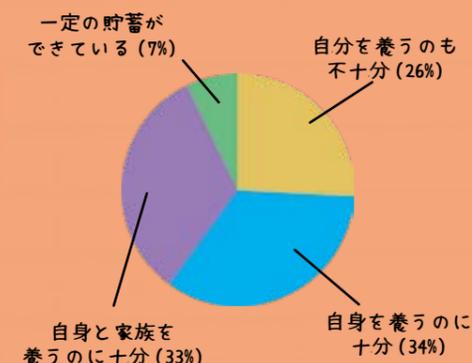
### 職業訓練修了生に協力を仰ぎ、総勢105名が事業評価の調査に参加

カンボジアでは、「若者の家」で2007年から継続してきた収入創出活動と若年層女性へのエンパワメント事業について、外部調査機関に依頼し、事業の評価を実施しました。

事業のインパクトに関する報告では、収入創出の部分において、インタビューに答えた訓練生の74%が、自身や家族のために収入が十分であると認識していることが分かりました。加えて、回答者の66%はKnkが支援する職業訓練コースに参加したことで生活環境がポジティブに変化したと「同意」もしくは「強く同意」しました。

その一方で、カンボジアの労働市場の変化に適応できていない側面もあり、現在の社会のニーズに合わせて事業を見直していく必要性も指摘がありました。2023年からは、リスクが高く保護を必要とする若年層女性を「若者の家」で受け入れ、職業訓練やライフスキルの習得などを支援する計画を立てています。

収入創出の状況調査



# 2022年ふり返り

## ◆バングラデシュ／ストリートチルドレンをめぐる地域とのコミュニケーション◆

### スタッフのあきらめない気持ちが実を結び、協力者が増えています。

「ほほえみドロップインセンター」では、スタッフが路上で暮らす子どもたちへの声掛けを日常的に行い、センターへの誘導を図っていますが、その中で、子どもたちの近くにいる大人たちとも話をしています。子どもたちの様子を伺い、ショドルガット港にやって来た子どもが新たにいないかなどの情報収集に努め、子どもを見かけた際はセンターへつないでもらえるよう協力を仰いでいます。

このような日々の対話に加え、センターでは年に何回か、地域の方々を招きセンターの活動内容を紹介し、「子どもの権利」や子どもたちにとって何が大切かを伝えることを目的とした啓発活動も実施しています。センター開設以来、10年以上に及ぶこれらの取り組みの結果、地域の方々の子どもたちに対する考えや接し方に変化が見られるようになり、「路上の子どもたちを見守るのは、地域にいる私たちの義務」とはっきり伝えてくれる方が増えました。また子どもたちからも、「大人からの暴力が減った」などの声が聞かれるようになりました。

じし守子  
やらのど  
のものは  
義務わ見



## ◆フィリピン／マニラ首都圏スラム地域における「子ども参加」◆

### 子ども・青少年らが、地域の課題の意思決定に積極的に参加しています。

KnKがノンフォーマル教育を展開するバゴンシーランとパヤタス2地域では、青少年グループ(CAYO: Children and Youth Organization)の活動が10年以上を経て年々活発になってきています。このグループは、子どもや青少年が意思決定などに参加でき、彼らが意見や考えを表明する機会が持てるよう組織化されました。

CAYOのメンバーは地域行政との会議に参加し、児童労働(マーケットでの野菜販売やゴミ拾いなど)や学校に通っていない子ども・青少年が多いことを課題に挙げ、若者の収入創出活動について政府からの資機材の提供や研修の実施について協議するなど、自分たち自身にまつわる課題の解決に向けて積極的に関わっています。

## ◆パキスタン／女子の中等教育へのアクセス拡大と質の向上◆

### 女性たち自らが、女子教育に関する課題について声を挙げています。

女子の教育へのアクセスを強化するため、パキスタンでは教育環境の整備に加え、教員やPTA、そして当事者である女子生徒たち自らの能力や意識の向上を図る活動も行っています。地域では女性の参画を推進する女性サポートグループも自発的に立ち上がり、学校内ではガールズサークルの活動も活発です。

さらに新しい取り組みとして、2022年は女子大学生31名をガールズユースアンバサダーに任命しました。現役の中高生のロールモデルとしての役割を担うと同時に、アドボカシー活動への積極的な参加が期待され、彼女たちの能力の向上もこれから図っていきます。2022年中、計7回開催した一般公開イベントにも教育分野の有識者や教育局職員、アドボカシーグループと共に登壇し、女子教育に関して地域が抱える課題の実質的な解決に向けた政府の協力を呼びかけました。 イベントの様子はYouTube(ユーチューブ)などでも公開されました。

## パキスタン／大洪水の被災者に対する緊急支援を行いました。

2022年6月から約2ヵ月間降り続いた大雨で大洪水に見舞われたパキスタンでは国土の3分の1が浸水し、被災者は3,300万人にも上り人口の7人に1人が被災しました。未曾有の自然災害を目の当たりにした現地チームやパキスタン政府からの強い要望を受け、KnKは9月末より緊急支援を開始し、2023年も継続しています(被害状況と支援内容の詳細はP19へ)。

2022年中は、370世帯2,579名を支援しました。生命や健康面で差し迫った危険にさらされた世帯、特に、妊娠中・授乳中の母親がいる世帯や子どもが多い世帯、障がい者や高齢者のいる世帯など、リスクの高い被災者を対象とし、彼らの命と安全が守られるよう、現地のニーズに合わせて支援を実施しました。皆さまからのご心配のお声やご寄付が集まり、粉ミルクの緊急配布や水のろ過装置の設置なども柔軟に行うことができました。 心から感謝申し上げます。



母親に粉ミルクを配布



ろ過装置の水を汲みに来る少女



避難所で元気に遊ぶ子どもたち

## フィリピン／青少年収容所での教育活動を再開しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により実施困難となっていた青少年収容所内での教育活動を2022年に再開しました。マニラ首都圏6ヵ所の青少年収容所・拘置所で292名を対象に、読み書きなどの基礎教育を提供した他、医療系の支援団体と協力し、健康診断や聞き取り調査も実施しました。

## カンボジア／今後は施設中心から、地域ベースの自立支援へ

2000年の開設以来、「若者の家」では支援の届きにくい15歳以上の青少年を受け入れ、教育や職業訓練の機会を提供し、学校への復学や就職など、彼らの自立に向けたステップを後押しして来ましたが、その支援者数は2022年までで467名にのぼります。

その一方で、カンボジア政府より、支援を要する若者を、施設での支援から、家族が暮らす自宅や親せき宅でサポートする地域ベースの自立支援へと移行していく方針転換があり、KnKでもカンボジア社会の変化に沿って、今後は「若者の家」での受け入れに加え、地域での支援にも注力していくことになりました。



美容の職業訓練を受ける少女



英語の勉強をする地域の子どもたち



「若者の家」での食事

CAMBODIA

カンボジア

「あきらめずに探していた手に職をつける機会。がんばって通いました。」



サン・ヴァニー (35歳)  
職業訓練修了生  
携帯ショップ勤務

私は、KnKがバイリン州オドントーに建設した地域学習センターの職業訓練を2021年に修了し、直後に携帯ショップでの修理の仕事が見つかり現在に至ります。私が17歳、9年生(中3相当)の時に家庭の経済的な事情などあり学校を中途退学した後、地元のNGOの支援でテレビ修理の訓練を受けて6、7年間テレビの仕事をしました。しかし顧客が少なく市場が小さかったので仕事を続けられず、その後は実家で飲み物やスナックなどを売る小さな店を構え、5年ほど暮らしていました。

それでもあきらめきれず、新たに技術を習得できる機会をずっと探していたところ、KnKの職業訓練コースを紹介してもらい、携帯電話であれば需要も多いだろうと考えて受講を決めました。今は、訓練で身に着けた技術を向上させることに集中して現在の職場で働き続けたいですが、いつか自分の店を持ちたいです。

PHILIPPINES

フィリピン

「グループに入ったのは、子どものためにできることを何でもやってみたいと思ったから。」



メナ (17歳/11年生)  
パヤタス地域の青少年グループ所属

私が所属している青少年グループは、私たちが暮らすパヤタス地域で、精神的・物理的にサポートを必要とする子どもたちのため、自分たちで活動を企画し実行しています。最近の子どもたちは通信機器などに時間を多く費やして、人と交流する機会があまりありません。その点で、青少年グループは子どもたちの「家」のような存在で、より深くお互いを理解し合うような場になっています。

グループは、スポーツ祭りを開いたり、「子どもの権利」に関するセミナーや早期妊娠の予防に関するセミナーも実施してきました。早期妊娠予防セミナーは他団体からファシリテーターを呼んで、具体的でありながらも楽しい方法で学ぶことができました。

私自身はグループのさまざまな活動を通じて、子どもとのコミュニケーションや子どもとより深い関係を築くスキルを身に着けることができています。

PALESTINE

パレスチナ

「研修で得た新しい知識やスキルを、仕事でうまく活かせていると感じます。」

子どもたちと接する時は、彼らがとにかくハッピーでいられるよう、特に、悲しそうな子やつまらなそうな子がいたら、個別に話す機会を作り、時には保護者や学校にも相談して、子どもが活動を楽しめていない原因を探し、解決できるようにしています。

また、子どもが自分の感情を自由に表現し、自分の気持ちを安心して他者に伝えられるような環境づくりにも工夫を心がけています。自分から何かを押し付けるのではなく、子どもから「来る」ことを待つようにしています。

ネガティブな気持ちや事柄を取り除き、小さなこと、とてもシンプルなことでも、ポジティブなことを続けていれば、良い変化が子どもに起こると信じています。子どもが得意なことをさらに伸ばすことはもちろんですが、チャンスがなかった子どもにもチャンスが巡るよう、全員に対して同じように接することも心がけています。



アーリア  
キッズセンターのソーシャルカウンセラー  
能力強化研修に参加

SYRIAN REFUGEES

シリア難民(ヨルダン/ザアタリ難民キャンプ)

「キャンプ内の公立学校で、KnKの教育活動に参加した感想をお話します。」

僕が、これまでKnKの授業を受けてきた中で興味深かったのは、早期結婚やオリーブの木の成長を表現する演劇の授業です。自由に自分の考えを伝えたり、自分自身を表現することができたからです。

2022年の夏季アクティビティではサッカーが一番楽しかったです。サッカーをしている時はみんな笑顔が自然とあふれました。そして参加者をまとめる「1日キャプテン」に選ばれた時は、本当にワクワクしましたし、先生に頼られていると感じました。僕を信頼して、他の生徒の面倒を見たり、まとめる役割を任せてもらえたことがうれしかったです。

KnKの先生たちは生徒を分け隔てなく、みんな同じように接してくれます。また、生徒の気持ちや状況を常に考えてくれています。そのような姿勢がとても有り難かったですし、自分も見習いたいと思いました。



フセイン (16歳/9年生)  
KnKの授業・活動に参加

BANGLADESH

バングラデシュ

「センターでは、愛情をたくさん受け、友だちと楽しい時間を過ごしました。」



ナヨン (19歳)  
ドロップインセンターの元裨益者

僕は、2014年から2018年までドロップインセンターで支援を受けました。今は友だちと一緒に部屋を借りて、助け合いながら生活しています。仕事は、昔から知っているショドルガット港の労働組合の代表が紹介してくれて港内で働いています。センターに通っていた頃、人との接し方について学びましたが、仕事でとても役に立っていると実感します。

センターでの思い出はたくさんありますが、その中でも一番は、2017年に皆でバスに乗って出かけた遠足です。博物館で歴史や文化を学んだり、大きな公園でクリケットをしたり、皆でご飯を食べたり、一緒に歌ったり、写真を撮ったり…と、一生忘れられない思い出です。

皆さんからのご支援で、子どもたちは毎日必要なことを満たせていますし、成長をしています。家族とつながれた子もいます。路上の子どもたちをサポートくださり、本当にありがとうございます。



ナヨン (当時12歳)  
センターの仲間たちと (左前)

PAKISTAN

パキスタン

「ガールズサークルの働きかけで、女子教育に対する地域の態度を変えることができました。」

学校のガールズサークルのメンバーとして、女子教育の重要性に対する家族や地域の態度に顕著な変化があったと自信を持って言えます。以前は、教育は男の子ほど重要ではないとの見解が持たれていました。しかし、私たちのサークルと、学校の先生、そして保護者の積極的な働きかけで、中途退学した生徒の保護者と面談を行い、女子教育の重要性を理解してもらうことができました。その結果、早期結婚者も含め、30名を超える生徒を学校に迎えることができました!

また、地域の方々や家族と一緒に女子教育の意義についての啓発活動を行い、現在注目を集めています。母親や地域の女性たちとセッションを開催して、女子が直面している課題について話し合い、共有し、意識を高めました。これにより、勉強を続けようとする女子や女性に対する地域の態度が著しく変化しました。この前向きな変化に貢献できたことを誇りに思います。



メハール (16歳/10年生)  
ガールズサークルのメンバー

# カンボジア

青少年の教育・自立支援、収入創出活動  
および若年層女性へのエンパワメント事業、青少年の就労支援

## 1. 青少年の教育・自立支援、収入創出活動および若年層女性へのエンパワメント事業

■実施期間■ 2000年9月～継続中

■実施地域■ バッタバン州

■裨益者とその数■ 15歳から30歳までの子ども・青少年約40名

■パートナー・関連諸機関■ 公益財団法人日本国際協力財団、ヘンケルジャパン株式会社、寺田倉庫株式会社、カンボジア社会福祉・退役軍人・青少年更生省、内務省バッタンバン支局、保健省バッタンバン支局など



カンボジア・バッタンバン州では長らく以下の二つの事業を継続実施してきたが、**2022年はカンボジア政府の方針転換や社会の変化を受け、事業内容の見直しに着手した。**

### ◇自立支援施設「若者の家」の運営◇

- これまで通り支援を必要とする若者を受け入れ、教育や職業訓練の機会を提供した。近年は「若者の家」につながるまでに学校から離れている期間が短い、もしくは中途退学する前につながるケースがほとんどのため、学校の転入・復学をする若者のみであるが、衣食住を支援しながら中学校や高等学校へ通うことができている。**2022年は14名の若者が支援を受け、4名が卒業し、その内3名が大学進学を果たした。**
- 一方で、カンボジア政府により、支援を要する若者を、施設ではなく実家や親戚宅でサポートするコミュニティベースの自立支援への方針転換があり、今後は「若者の家」での受け入れの他、コミュニティでの支援にも注力していくこととなった。2022年10月より、10件ほどコミュニティでの支援の照会を受け、2023年1月より2名の支援開始を予定している。
- これまでバッタンバン州を中心に若者を受け入れてきたが、依然として多くの若者が支援を必要としているとの情報もあり、隣州など対象地域を拡大しつつ、「若者の家」での支援にどう積極的につなげていくか、関係諸機関との連携を強化していく。



勉強に励む「若者の家」の少女たち

### ◇収入創出活動(IGA)および若年層女性へのエンパワメント事業(YWE)◇

- IGA/YWE事業では、計8名が縫製と絹織物の生産活動に参加し、巾着やバッグ、ポーチなどの小物を製作した。「若者の家」敷地内のショールームでの販売の他、バッタンバン市内で開催された商業省主催の展示会への出店、さらには日本からの大口受注を行い、上記製作品を販売した。
- 2021年から2022年にかけて外部調査機関に依頼して事業の評価を実施した。その結果、職業スキルに留まらずライフスキルトレーニングの実施などソフトスキル習得までの支援を提供してきたことは、バッタンバン州内の他機関・他団体とも差別化されるなど付加価値を持たせて事業実施できたとの評価を得られた。IGAについては、女性の就職先の選択肢が増えたことや、これまで生産者として活動に参加した女性たちが、その後独立して現地で一定の収入を確保できているなどの成果が確認された。
- 事業開始当初からの状況の変化に合わせ、KnKの施設内での生産活動は2022年で終了とし、2023年からは職業訓練の場を拡充する。今後はリスクが高く保護を必要とする若年層女性を「若者の家」で受け入れ、職業訓練とソフトスキルの習得を支援する。



布を型取りしてドレスを作る女性たち

## 2. パイリン州におけるコミュニティ・ラーニング・センター（CLC）の質向上を通じた青少年の就労支援

■実施期間■ 2020年2月～継続中

■実施地域■ パイリン州

■裨益者とその数■ 職業訓練受講者308名、インストラクター15名、CLC運営委員会約35名、計358名

■パートナー・関連諸機関■ 日本国外務省、パイリン州ノンフォーマル教育(NFE)課、パイリン州各コミュニティ・ラーニング・センター(CLIC)運営委員会

### ◇本事業について◇

パイリン州内にあるコミュニティ・ラーニング・センター（CLC）を拠点として、これまで支援が行き届きにくかった若者へ支援の場を提供し、より安定した就業につながる職業スキルを適切に提供し、貧困状態からの脱却を目指している。さらには関係諸機関と連携し、支援を受けることなく孤立してしまう若者がでないようセーフティネットの構築を目指していく。

### ◇コミュニティ・ラーニング・センター（CLC）の利用環境改善◇

- パイリン州プノムヤード、オウチャットブラムの2カ所に新しいCLCを建設、スタンカッチ、プサープロムの2カ所の建物の修繕を行った。建設では、地元の建設業者2社を入札方式で選定し、建物の強度や工程、資機材の質など建設コンサルタントの助言を受けながら、約半年の工期で建設を行った。
- 必要な資機材や職業訓練資機材を提供し、新設した建物の保全講習会を開催した。

### ◇支援プログラムの強化(コンテンツの再構築)◇

- パイリン州内の5つのCLCにて職業訓練コースを合計9コース開講し、合計147名が訓練に参加した。
- 2022年12月現在、127名が職業訓練を修了した。職業訓練に登録したものの、様々な事情により途中で離脱してしまう若者のフォローアップとして、個別訪問による訓練生やその家族の説得や、訓練生が訓練修了後の将来を具体的に考えられるように「人生設計シート」の作成と個人面談を行った。
- 技術的な訓練とは別に、訓練生の若者たちが社会で生き抜く力(ライフスキル)を身につけられるよう、「職場での上手な人間関係の築き方」などを学ぶトレーニングを実施した。



現地の若者の家庭を訪問する派遣員(右端)

CLC名	サラークラウ	スタンカッチ	プサープロム	プノムヤード	オウチャットブラム
開講時期	2022年4月～7月	2022年7月～10月	2022年8月～11月	2022年11月～2023年2月	2022年11月～2023年2月
コース名 ( )内は2022年12月末現在の訓練生数	縫製(21) 携帯電話修理(11) エアコン修理(17)	美容(14)	エアコン修理(17)	美容(17) エアコン修理(15)	縫製(25) 理容(10)
計	49名	14名	17名	32名	35名

### ◇就業支援◇

- CLCでの職業訓練を終えた卒業生に対し、安定したより条件の良い就職先のマッチングや就職面談に同行するなど就職サポートを実施し、合計88名の訓練生が就職できた。
- 2021年1月～2022年3月に就職した元・CLC職業訓練生120名の就労状況を定期的に確認し、状況に応じて再就職や訓練継続などのフォローアップを行った。



就職先でのフォローアップ

# フィリピン

青少年の保護・自立支援、スラム地域支援、青少年収容所の教育活動

■実施期間■ 2001年7月～継続中

■実施地域■ マニラ首都圏ケソン市パヤタス、カラオカン・サウス市、カラオカン・ノース市グアダノービル、バゴンシーラン、マラボン市、ナボタス市、パサイ市、リサール州カインタ市、ブラカン州マロロス市

■裨益者とその数■ 5歳以上の子ども、青少年、保護者 1,273名

■パートナー・関連諸機関■ 伊藤忠商事株式会社、寺田倉庫株式会社、一般財団法人ゆうちょ財団、フィリピン社会福祉開発省、フィリピン教育省



## ◇「若者の家」◇

- ・虐待・育児放棄を経験した子ども、ストリートチルドレン、法に抵触した青少年ら17名が「若者の家」で生活した。2022年は新たに9名を受け入れ、8名が家庭復帰、あるいは支援を終了した。
- ・「若者の家」での生活や活動を通して社会性や自信を身につけ、他者との信頼関係を築けるよう、絵画、音楽、スピーチ、グループシェアリング、ディスカッションなど年間305件のアクティビティを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大以降オンライン授業が続いていた学校教育は2022年8月末に対面授業が再開、現在「若者の家」に居住する9名のうち6名が通学し、3名は「若者の家」の中でノンフォーマル教育や補習授業を受講している。「若者の家」の中での補習授業や「若者の家」の教員の丁寧なフォローアップもあり、子どもたちの学業成績が向上した。
- ・子どもたちの懸念や心配事を協議、解消できるよう、子どもたちとの会議を23回実施した。子どもたち同士、あるいは子どもたちがスタッフに対して伝えたいことを表現できるよう、また「若者の家」のルールや方針について、子どもたちの意見を聞き、子どもたちが意思決定に参加できる機会にしている。



オンライン授業を受ける「若者の家」の子どもたち

## ◇コミュニティ活動（バゴンシーラン地域、パヤタス地域）◇

- ・バゴンシーラン地域77名、パヤタス地域135名がノンフォーマル教育に登録した。学習者の学習スタイルにあわせ、前回授業の復習やペアでの学習など理解が深まるよう工夫した。学習者からは継続的な出席や授業中の積極的な質問などから教育を大事に思っている様子が伺えた。バゴンシーラン12名、パヤタス36名が学習計画、学習記録、エッセイなどの審査に合格し、公教育修了と同等の資格を得た。
- ・バゴンシーラン地域6名、パヤタス地域6名、「若者の家」の卒業生4名に奨学金を給付した。奨学生はコミュニティ活動に参加し、他の子どもたちに勉強を教えるなど、活動に関する情報を共有して、参加するように促している。
- ・バゴンシーラン地域150名、パヤタス地域121名の若者・青少年がコミュニティ活動に積極的に参加、主導し、リーダーシップ研修、性的虐待、HIV/AIDS、デング熱、災害対応等に関するセミナーなどを147回実施、参加した。青少年らはスタッフが企画した活動に参加するだけでなく、自分たち自身で活動を企画、実施するなど、地域行政へのアドボカシー活動も行っている。
- ・バゴンシーラン地域149名、パヤタス地域120名の保護者が定期的にミーティングを行い、学校を中退し、働きながら勉強を続けたい子どもにノンフォーマル教育の情報を伝え、また登録手続きのフォローアップをするなど活動への子どもの参加促進、資金協力等について協議し、地域における活動実施時に積極的に参加して下さった。

## ◇青少年収容所/拘置所◇

- ・KnK フィリピン事務所が新たに海外の財団から資金を獲得し、6カ所の青少年収容所/拘置所で活動を開始し、292名の子どもを対象に活動を実施した。収容されている子どもたちの多くは、収容前に通学していた子どもも含め、収容に伴い学習を継続することができなくなっており、KnKは読み書きなどの基礎教育を提供した他、医療系の団体と協力し、健康状態に関する聞き取りや診察も行った。

# バングラデシュ

ストリートチルドレンのためのドロップインセンター運営

■実施期間■ 2011年9月～継続中

■実施地域■ ダッカ管区ダッカ県ケラニゴンジ郡（ショドルガット船着き場）

■裨益者とその数■ 6歳から17歳までのストリートチルドレンのべ約9,500名

■パートナー・関連諸機関■ 株式会社タムラ製作所、積水ハウスマッチングプログラム、Society for Underprivileged Families (SUF)



## ◇「ほほえみドロップインセンター（DIC）」の活動◇

センターは平日（日～木）の9時から17時まで開所し、1日約40名の子どもたちを受け入れている。2022年は新型コロナウイルス感染症への対応のための行動規制などは行われず、年間を通してカレンダー通りに開所することができた。



栄養バランスの取れた食事の提供：朝食のべ5,836名、昼食のべ9,457名がとった。



教育クラスの実施：月に10回ほど実施。年間のべ2,644名が参加し、簡単な読み書き計算を学習した。



ワークショップの開催：衛生・保健教育、一般常識、「子どもの権利」に関する啓発など年67回開催し、のべ1,722名が参加した。



応急処置：路上生活で発症した皮膚病やケガの応急処置を132名に施した。



屋外活動：クリケットなどのスポーツ大会の開催やプール、博物館などへの遠足を計3回実施し、のべ74名が参加した。

コミュニティへの啓発活動：来所する子どもだけでなく、子どもたちが河を横断するのに頻りに利用するボートの船頭や子どもたちの雇用主などに対しても啓発活動を3回開催し、DICの活動の意義、子どもたちの状況、子どもたちを地域で見守るための「子どもの権利」についての知見を深めるための情報提供などを行い、のべ23名が参加した。

睡眠場所の提供：働いて疲れた身体を休めるため、また、安心して寝られるようマットレスや毛布と共に睡眠場所を提供した。毎日14～15人程の子どもがDICで睡眠をとっている。

# ヨルダン（シリア難民） シリア難民に対する教育支援 公立学校における日本式教育活動の試験実施

## 1. ザアタリ難民キャンプ内の学校における、シリア難民への教育支援

- 実施期間■ 2013年3月～継続中
- 実施地域■ マフラック県ザアタリ難民キャンプ
- 裨益者とその数■ 男女合計1,266名/女子シフト:732名(5年生～10年生)、男子シフト:534名(5年生～8年生)
- パートナー・関連諸機関■ ヨルダン教育省、ユニセフ、宗教法真如苑



### ◇学習面の支援◇

- ・慢性的な学力の低さに加え、コロナ禍のオンライン教育を経て学力がさらに低下している傾向にあるため、授業内でアラビア語の読解や作文の時間を増やすなどの工夫をした（例：作文した自己紹介文をクラスメイトの前で発表する授業、物語を通じた読解の授業）。
- ・人前で自分の意見をうまく言えない生徒も多いことから、演劇や音楽の授業で表現力を高める授業を強化した（授業例：りんごの木の一生を、身体を使って表現する、音楽から情景を想像し言葉で表現してみるなど）。

### ◇学校の生活環境面への支援◇

- ・校内における生徒同士の喧嘩や暴力、児童労働・早期結婚による不登校または退学、SNSの功罪と使用方法など、生徒たちの身近にある問題・課題をテーマとして取りあげ、どのように予防・対処していくかを講義やディスカッションを通じて学ぶ授業を実施した。（テーマ例：感情を理解する、勉強の意義を考えるなど）



生徒が興味を持つように、教師が日々工夫しながらキャンプでの授業を行っている

上記二つの活動に共通する課題として、9月の新学期より留年制度が厳しくなり、KnKが活動するキャンプ内の学校でも、授業の出席率やテストの結果が基準に満たなかった生徒が各学年70名ほど留年している。学習面の支援もさることながら、生徒たちが学校に通い続けられる・通いたいと思える環境づくりを、学校側と協力しながら積極的に継続していく必要がある。



リラクセス体操



腕相撲大会

### ◇オンラインの活用◇

- ・コロナ禍におけるオンライン教育下で使用してきた教員と生徒間のSNSグループを引き続き活用した。学校に関する情報、KnKヨルダンのフェイスブックへの投稿、生徒にとって有益と思われる情報の共有を積極的に実施し、生徒のみならず保護者の目にも留まり、KnKの事業に対する理解を促進するような発信を心がけた。

### ◇心理ケア◇

- ・特別な心理ケアが必要な生徒のケースに対応し、外部の専門家による協力を得て、KnKのスタッフ向け研修を実施した。生徒本人に対するケアだけでなく、周辺の生徒、教員、家族など、該当生徒を取り巻く周囲に対しても適切な行動や声かけができるよう働きかけを行うと共に、必要に応じて生徒の個別相談を実施した。

## 2. 社会性育成を主眼に置いた特別活動実践と体制構築事業

- 実施期間■ 2018年6月～2022年1月（JICA草の根技術協力事業）、2022年2月～12月（自己資金によるフォローアップ）
- 実施地域■ アンマン県
- 裨益者とその数■ 公立校17校、生徒12,271名
- パートナー・関連諸機関■ ヨルダン教育省、マルカ教育局、カサバトアンマン教育局、独立行政法人国際協力機構（JICA）

### ◇本事業について◇

ヨルダンでは、教員や保護者は学校の目的を勉学のみとする傾向が強く、異なる国籍の児童らが共に学び、他者理解や協調性といった社会性を高めるような取り組みは十分と言えない。

2018年より開始した本プロジェクトでは、アンマン市内のシリア人児童の多い公立学校12校に日本式教育活動の「特別活動」を試験的に導入、異なる国籍の子どもたちが学校という集団生活を送る場で、共に学び、互いを知り、豊かな社会性を育むことを目指し、朝の会や日直当番、学級会や異なる学年で構成される縦割り班活動などを実施した。

本プロジェクトは、これらの活動をヨルダンの学校で自立的に教員らが実施できるように、ヨルダン式特別活動のモデル構築を目指したものである。

### ◇JICA草の根技術協力事業◇

- ・JICAの事業としては、2018年から開始した試験的な特別活動の取り組みをまとめる最終年度であったことから、ヨルダンの学校で今後、特別活動が実施できるよう特別活動の指針や概要を記したガイドライン、実施方法について詳細を記した教員用ハンドブック、動画による教材を完成させた。対象校や教育局、教育省には、それらの教材を譲渡、配布した。
- ・日本国内では、3月にJICA東京において、オンライン形式での完了報告会を開催し、活動の成果を広く一般の方々にも報告する機会を得た。
- ・JICAからは草の根技術協力事業の好事例の一事業として取りあげられ、ウェブサイトで紹介された。



自分で作った自己紹介カード



生徒への研修の様子



冠をかぶった日直さん

### ◇フォローアップ◇

- ・1月にJICA草の根技術協力事業が終了してからは、事業にこれまで参加した対象校へ定期的なモニタリングや活動の助言を提供するなど、各校を訪問し、活動の定着を促した。
- ・加えて、特別活動への関心を示す学校が新たに5校あり、教員研修や保護者向けガイダンスなどを計15回実施し、活動の導入をサポートした。その後、活動のフォローアップやモニタリングを複数回実施し、また、それらの方法を教員自ら実践できるように、指導した。
- ・2023年1月からは、対象地域をさらに広げ、アンマンの学校に加え、ザアタリ難民キャンプ内の学校でも特別活動を導入していく。この活動は、国際協力機構（JICA）より草の根技術協力事業「特別活動の継続的実施と普及のための基盤整備事業」として業務委託を受け、実施する。

## パキスタン ハイバル・パフトゥンハー州における女子の中等教育へのアクセス拡大と質の向上

■実施期間■ 2017年7月～継続中（2020年11月～中等教育に特化）

■実施地域■ ハイバル・パフトゥンハー（KP）州アボダバード郡、マンセラ郡、トルガー郡

■裨益者とその数■ 10歳から15歳の児童・生徒2,203名、PTA24名、教員53名、教育局職員・州議会議員・地域住民

■パートナー・関連諸機関■ 日本国外務省、パキスタンKP州政府、

パキスタン教育省アボダバード郡支局、マンセラ郡支局、トルガー郡支局、Friends Welfare Association（FWA）



### ◇学習環境の整備◇

• **トルガー郡、アボダバード郡とマンセラ郡の中学・高等学校計3校の校舎施設を建設し**、ハード・ソフトの両面で女子が安心して中等教育にアクセスできるよう支援した。**その結果、対象校の純就学率が平均31%から85%に改善し、退学率は平均35%から2.7%に減少した。**トルガー郡では、民家の一角で学んでいた女子が自分たちの学校を持つことを実現させ、過密状態であったマンセラ郡やアボダバード郡の学校では、入学を断られるなど、校庭や廊下で授業を受けていた女子が安全な環境で学習できるようになった。あわせて、女子の就学を阻害していたトイレや境界壁などを整備すると共に、教育活動の質向上を図り、デジタル機器を備えた教室も整備した。

### ◇教員・PTA研修、ガールズサークル・アドボカシーグループの組織化◇

- 教員やPTAへの研修を通じ、関係者の能力や意識の向上を図った。**PTAは研修後、資金を集めて学校を修繕し、教員の雇用費に充てるなど積極的に学校運営に関わり始めた。**
- 学校内でガールズサークルを形成し、青年期に必要なコミュニケーションやチームワーク、意思決定やストレス管理などをテーマにしたライフスキル研修を実施した。生徒からは「アクティビティを通じて自分を認め、自分の考えを他の人と共有できるようになった」、「周りの人のハッピーな表情に気づけるようになった」などの感想が聞かれた。
- アドボカシー活動は、コミュニティや郡、州レベルで多様なアクターを巻き込んで展開した。コミュニティで3つのアドボカシーグループ（CAG）が形成され、**女性の参画を促す女性サポートグループも自発的に2ヵ所で立ち上がった。**CAGは、非就学の女子の家庭を一軒一軒訪ね、また女子教育の重要性についてSNSでメッセージを配信するなどのアクションを起こした。
- 女子教育向上を訴求するための新しい試みとして、**ハズラ大学の女子学生計31名をガールズユースアンバサダー（GYA）として任命した。**GYAは、中高生の女子のロールモデルとなり、女子生徒への動機づけや力づけを行うと同時に、コミュニティとの会議に出席するなどした。また、州レベルで政策提言セミナーを開催し、GYAを中心に当事者や地域の声を政策に届ける場を設けた。「空席の女性教員を確実に配置してほしい」、「児童婚に関わる法律の施行を望む」など、女子教育推進のための具体的な策が主にGYAによって提言された。



意見を交わす女子中学校の生徒会のメンバー（左）とガールズユースアンバサダーたち（右）



新しい校舎の前で

## 【緊急支援】 シンド州及びバロチスタン州における水害被災者へのシェルター支援及び衛生促進

■実施期間■ 2022年9月30日～2022年12月31日（2023年も継続実施）

■実施地域■ シンド州ジャコババード郡、バロチスタン州ジャファラバード郡、ソバットプール郡

■裨益者とその数■ 物資配布対象の被災世帯370世帯（約2,579名）、左記のうち衛生啓発セッション参加者2,118名

■パートナー・関連諸機関■ 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム、Community Development Foundation（CDF）、SHIFA Welfare Association-SHIFA、シンド州ジャコババード郡災害管理局、バロチスタン州ジャファラバード郡及びソバットプール郡災害管理局

### ◇本事業について◇

パキстанは、2022年6月から8月にかけて厳しいモンスーン気候に見舞われた。記録的な豪雨は全土で洪水や土砂崩れを起こし、国の3分の1が水没する未曾有の大災害が発生した。パキスタン国家災害管理庁によると、約3,300万人が洪水の影響を受け、死者数は約1,700人、避難民は800万人に上った<sup>1</sup>。計200万戸以上の家屋が損壊または全壊し<sup>2</sup>、主要インフラは破壊された。洪水は農業にも壊滅的な損害をもたらし、人々の生計活動に必要な家畜の被害も大きい。

特に、国土の南部や中央部の被害が大きく、シンド州とバロチスタン州は人命や家屋損壊、また水衛生施設などインフラの面で最も深刻な被害を受けた。今回対象とした地域は、大雨と洪水によって家屋の90%が泥水に浸かり、家が全壊した家庭は家財道具も一切流された。被災により、人々は安全に生活する場を失い、また不衛生な環境の中、下痢や感染症など公衆衛生上のリスクにも晒された。マラリアやコレラの症例も多数報告され、劣悪な衛生設備と水資源の汚染は、水に起因する病気の事例など子どもたちの健康とウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態）に悪影響を及ぼし<sup>3</sup>、加えて栄養不良の子どもの割合も高まった。

(1) UNDP: PAKISTAN FLOODS 2022 Post-Disaster Needs Assessment, Oct. 28, 2022. (2) UNOCHA, Pakistan: 2022 Monsoon Floods Situation Report No.13, 6th January 2023. (3) UNOCHA, Pakistan: Floods Response Plan: 01 Sep 2022 - 31 May 2023, Oct. 4, 2022

### ◇水害被災者に対する緊急支援◇

- **計370世帯が生活状況を改善できるよう、テントや蚊帳、加えて石鹸や生理用品といった衛生用品などの生活に必要な物資を配布した。**家屋が全壊し支援が必要な世帯は10万ほどあったが、水没した被災地域の中でも遠隔地に避難し、居住スペースの損失によって**生命や健康面で差し迫ったリスクに晒されている世帯を選定した。**
- 被災地では野外での排泄により蚊やハエなどが増加し、病原体媒介性の疾病が多く発生していたことから、50人に1基の割合で**計48基の共用トイレをコミュニティ内に設置した。**
- 母親層の栄養が足りず、十分な授乳ができないなど、乳幼児の栄養不足も懸念されたため、**KnKは粉ミルクを乳児50人に緊急配布した。**
- 対象地域で行った調査では、衛生環境の悪化に加え、手洗いなど人々の衛生習慣が不十分であることが明らかとなった。KnKは、**衛生意識の向上を図り、衛生啓発セッションを実施し、子どもから大人まで計2,118名が参加した。**同セッションでは、衛生リスクや疾病、感染症への予防対策などを取りあげ、自らの健康を守る行動を日常の生活の場でもとれるよう促した。
- これらの支援により被災した人々の生活状況やトイレなどの衛生環境が大きく改善した。**事業実施後の調査では、生活や衛生環境が改善したと回答した世帯の割合は81%、また、対象者のうち疾病の予防法を3つ述べられるなど衛生知識を向上させた人々の割合は98%であった。**しかし、人々の意識や慣行が改善されたものの、下痢や感染症などの疾病率には顕著な成果が得られなかった。主な要因としては、想定よりも水の引きが遅く、各地に滞留していた水が土壌に浸透し、家畜の死骸が水の汚染を進行させたこと、また当初予定されていた他機関による給水支援が十分に行われなかったことなどが挙げられる。そうした状況から、KnKは**ろ過装置と給水タンクを3ヵ所のコミュニティに提供し、計1,000名の被災者が安全な飲み水へのアクセスを確保した。**
- 対象地は、災害発生以前から現地通貨の下落、インフレ率の急上昇と経済危機の渦中にあっただが、洪水後、さらに食糧などの価格が急騰し、人々の不安は尽きない。KnKは、今なお水が引かず、「二次災害」に見舞われている地域を対象に、人々が健康を維持し安心して暮らしていけるよう、2023年も引き続き支援を行う計画である。



きれいな飲み水を汲みに来た少女

## パレスチナ ジェリコ(ヨルダン川西岸地区)における子ども支援の拡充事業

### ◇ 2022 年中の支援活動 ◇

- 2017年11月から2021年8月まで、ヨルダン川西岸地区ジェリコ県において、子どもたちが精神的に落ち着き、社会性を向上させるために、学校と子ども支援センターの活動の拡充を目指す事業を実施してきた。具体的には、教員・スクールカウンセラー、子ども支援センター職員への音楽・演劇・美術・心理ケア研修の実施、子ども支援センターでの活動、保護者向けワークショップの開催、子どもと関わる教員・職員・保護者向けの心理ケアと音楽・演劇・美術の活用方法を記載したハンドブックの作成を行った。
- 事業終了時には、子ども支援センターの職員2名がジェリコ市の職員として引き続き雇用され、センターにおいて子ども向けの活動を毎日提供している。特に、**新型コロナウイルスの規制がなくなった2022年は、地域の福祉施設への訪問、遺跡への遠足、保護者や地域の方たちを招待した発表会など、事業終了後も地域において広く活動を継続している。**
- カウンセラー職員による保護者向けワークショップも定期的に開催し、地域の保護者が参加し、交流する貴重な場となっている。研修に参加した教員やハンドブックを活用している教員は、パレスチナの優秀教員に選出され、自身の授業案を紹介するハンドブックを作成するなど、事業終了後も研修やハンドブックの内容を活かし、実践している。
- 2021年にジェリコ県において実施した子ども・青少年・若者のニーズ調査では、集まれる場や社会機会の欠如が、若者・青少年の退屈感やストレス、子どもの暴力性につながっているなどの問題が確認された。これを踏まえ、KnKは、2023年2月より、ジェリコ県北部のヨルダン渓谷において、若者・青少年の能力向上を支援し、彼ら自身が地域や社会に貢献できるよう、若者の社会参画と青少年・子ども向け活動を行う新事業を開始する。



## 日本（東北） 東日本大震災の被災地における復興支援サポート

### ◇ 2022 年中の支援活動 ◇

- 岩手県釜石市唐丹グラウンドに給水設備および仮設トイレを設置した。
- 東日本大震災で唐丹小学校が被災し同校は釜石小学校と統合されたため、校舎は取り壊されその跡地にスポーツ少年団の野球グラウンドが整備された。このグラウンドは全国大会が実施される学童用の規格に合った公式グラウンドにもかかわらず、衛生的なトイレと水道設備が整っていなかった。KnKは釜石市体育協会の要請を受け、同グラウンドに仮設トイレと給水設備を設置した。釜石市の青少年のみならず、全国の野球少年が快適にプレーできるようになった。

KnKは、緊急支援から復興支援と11年に渡り被災地の方たちと関わり続けてきたが、2022年度を持って支援活動を一区切りすることができた。

### 緊急・復興支援の軌跡



①被災地調査／②学校機能回復のための物資支援／③子どもの居場所づくりのため「走る！KnK子どもセンター」運行開始／④部活動・スポーツ少年団備品提供／⑤地域の居場所づくりのため公民館再建／⑥公園整備／⑦写真展開催

## 友情のレポーター、友情の5円玉キャンペーン、メディア

### 【友情のレポーター】

「友情のレポーター」は、日本にいる青少年に向けた教育プロジェクトで、日本在住の11歳から16歳までの子どもを公募で選抜し、KnKが教育活動を展開する活動地へ派遣している。レポーターたちは、現地の様子や支援を受ける子どもたち取材しながら、彼らと交流して相互理解を深め、帰国後は取材したことを自らの言葉で学校や地域、メディアで発信し、国境を越えた人々の理解を促進する役割を担っている。1995年の開始から33回、これまでに計66名のレポーターが派遣された。

2020年以降、新型コロナウイルスの影響で渡航は中止となっているが、中高生を対象としたワークショップ「五つの質問 世界の子どもたち、同じと違い」を2022年9月10日に実施した。感染状況が落ち着いたため、25周年記念KnK写真展（東京都新宿区）を会場とし、オンラインでカンボジアとパレスチナの子どもたちをつなぎ、お互いに質問を投げかけた。文化や宗教の違いがある中で意外な共通点や社会状況の違いによる相違点などを、子どもたちの生の声から発見することができた。

来年度以降のレポーター募集は状況を見て検討する。

### 「五つの質問 世界の子どもたち、同じと違い」参加者の感想

「実際に顔を見て話したことで、聞いているときに心に届くキヨリが近く、真剣に受け取ることができた」

「大変な状況の下にあると思うが、夢も変えたいことも、人のためにと考えていて勉強になりました」

「その国の問題点やみりょくについて全員の人々が知っていて、その国を愛していることが伝わってきた。私の場合は、国への愛などを考えたり感じる事があまりなかったので、素敵な部分だと思った」

「スポーツすることや友だちと遊ぶことが好きなのは、私も同じだと思った。しかし、その国に対する愛や夢に対する重さが違って興味深く感じたし、お互いに共有ができてよかった」

「色々な制限がある中で、楽しみを見つけて生活しているところに人の力強さを感じた」



### 【友情の5円玉キャンペーン】

主に小中高校生を対象とした当募金プログラムは本年で第44回目を迎えた。全国の学校、企業、そして個人の方にご参加いただき、その他の学校法人寄付などと合わせて1,031,225円（前年比101%）となった。コロナ禍にもかかわらず、たくさんの方の5円玉を集めてくださった。集まった募金は海外での活動に充当することができた。

### 【メディアを通じた理解の促進】

2022年のメジャーメディアへの露出数は、新聞11、雑誌等10、テレビ・ラジオ8、計29件で、前年比85%となった。コロナ禍の影響で「友情のレポーター」を中止したことやPRチームによる海外出張が制限されたことでメディア露出は苦戦した。一方、東日本大震災の写真展『時を重ねて—東日本大震災から現在—』を岩手県陸前高田市で開催し、地元紙でも掲載された。

また、「途上国の子どもたちへホームランを打つごとに10万円を寄付する」というKnKへの支援活動が評価されたプロ野球選手の吉田正尚氏（当時オリックス・バファローズ所属）がゴールデンスピリット賞を受賞したことで数多くのスポーツ紙で紹介され、新しい層へKnKの活動を知っていただく機会となった。

# イベント

## 東京マラソン 2021 が開催されました。



© 東京マラソン財団

2022年3月6日(日)、入念な感染症対策の下、3年ぶりに東京マラソンが開催され、KnKは東京マラソン2021チャリティの寄付先団体としてレースに参加することができた。この日、本来2020年に出走予定であったKnKチャリティランナー69名の内、国内ランナー11名が東京を走った。

\* 国境なき子どもたち (KnK) は、東京マラソン財団チャリティ「RUN with HEART」の寄付先団体です。  
東京マラソン財団チャリティ「RUN with HEART」公式ウェブサイト <https://www.runwithheart.jp/>

快晴に恵まれてマラソン日和となった2022年3月6日、青いタスキに込められたカンボジアの「若者の家」の子どもたちの思いに文字通りに身を包まれながら、無事に「国境なき子どもたち」のチャリティランナーとして東京マラソンを完走することができました。世界中で困難に直面する人々と、悠長にマラソンを走る自分とのギャップに違和感を感じることもありましたが、一方で、そのような人々を支えるために自分にできることをやっ

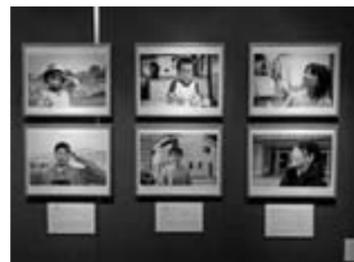
て行こうという決意を新たにすることもできました。もう一つ分かったことが応援の力。コロナ禍で声を出しての応援が制限された中、精一杯手を振って下さったボランティアの皆さまー全く面識のない方々ですが、自分を応援してくれる人がいるという事実だけでも大きな勇気になりました。そんな勇気を一人でも多くの子供たちに届けられるよう、引き続き「国境なき子どもたち」への支援を継続させていただきたいと思っております。

チャリティランナー 荒井悟さんのメッセージ

## KnK 写真展『時を重ねてー東日本大震災から現在ー』を岩手でも開催しました。

2021年から延期していた、東北における復興支援活動を総括する写真展を、2022年4月に東京新宿区のアイデムフォトギャラリー「シリウス」、同年7月に岩手県陸前高田市の「アバッセたかたパブリックスペース」で開催することができた。写真展では、認定NPO法人 Dialogue for People を運営するフォトジャーナリストの佐藤慧氏、安田菜津紀氏のお二人と、KnK スタッフでもある人道写真家の清水匡が、震災から11年の想い、そしてこれまでに会った方々の成長や変化を撮影した写真を展示した。

東京展のご来場者は、「忘れないという気持ちを改めてかみしめました」、岩手展では当時を思い出して涙を流す方や、写真にうつる本人や友人たちが「なつかしいな、変わったな」と、笑顔で写真と向き合う姿が見られた。



## 団体設立25周年記念事業を行いました。

2022年9月で団体設立から25年の節目を迎え、「国境なき子どもたち25周年。これからは子どもたちと共に学び成長していきます」のメッセージのもと、写真展、オンライン・対面イベント、ウェブ連載などを約4カ月にわたり年末まで実施した。ウェブ連載『KnKと私』では、活動地で働く派遣員から、東京事務局で業務にたずさわるスタッフまで総勢16名が、それぞれの立場で自身の仕事や子どもたち、活動への想いを語った。ご支援者のお一人からは、「楽しく読ませていただいた。特に、『これまで最も困難だったエピソード』では、みなさんの心の葛藤を垣間見ることができてよかったです。子どもたちだけでなく、そんな人間味あふれるみなさんのことも応援しています」と、メッセージをいただいた。

この『KnKと私』は、KnKウェブサイトでご覧いただけます。→ <https://knk.or.jp/info220901/>



## 【2022年度主なイベント】

東京マラソン 2021 3月6日(日) 東京都	主催：一般財団法人東京マラソン財団
【報告会】ヨルダン「社会性育成を主眼に置いた特別活動実践と体制構築事業」事業完了報告会 3月30日(水) オンライン	主催：JICA 東京
【写真展/トークイベント】「時を重ねてー東日本大震災から現在ー」 4月7日(木) オンライン	(※)
【写真展】「時を重ねてー東日本大震災から現在ー」 4月7日(木)～4月13日(水) 東京都・新宿区/アイデムフォトギャラリー「シリウス」	(※)
【写真展 in 岩手】「時を重ねてー東日本大震災から現在ー」 7月13日(水)～7月20日(水) 岩手県・陸前高田市/アバッセたかたパブリックスペース	(※)
【勉強会】第13回「緊急下の教育 (EiE) 勉強会」 7月21日(木) オンライン	主催：教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)
【写真展】「LOST CHILDHOODーバングラデシュ、失われた子どもたちの時間ー」 8月9日(火)～8月15日(月) 千葉県・鎌ヶ谷市/きらり鎌ヶ谷市民会館ロビー	(※)
【KnK 設立 25 周年記念写真展】「共に成長するためにー世界の子どもたちー」 9月1日(木)～9月14日(水) 東京都・新宿区/アイデムフォトギャラリー「シリウス」	(※)
【ワークショップ】「五つの質問 世界の子どもたち、同じと違い」 9月10日(土) 東京都・新宿区/アイデムフォトギャラリー「シリウス」	(※)
【ブース出展】中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2022 9月23日(金)～9月25日(日) 岐阜県・中津川市/中津川公園	主催：中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2022
東京レガシーハーフマラソン 2022 10月16日(日) 東京都・新宿区	主催：一般財団法人東京マラソン財団
【トークイベント】海外派遣員が伝える「活動現場と子ども・若者たち、そして私」～ヨルダンとカンボジアをつないで 10月28日(金) オンライン	(※)
【トークイベント】子どもの権利を大切にするために、私たちにできること～国を越えて共に学ぶ～ 11月20日(日) 東京都・新宿区/JICA 地球ひろば (オンラインによるハイブリッド開催) 共催：認定NPO法人PIECES、KnK	
【イベント】“音楽と平和～we share the world～in Tokyo” 12月3日(土) 東京都・港区/メイキットコープ株式会社	主催：メイキットコープ株式会社

※のあるものは国境なき子どもたち主催イベント

【団体組織】

■理事会■

2022 年末現在、国境なき子どもたちの理事会は次の通り構成されている。また、NPO 法上の社員に相当する評議員は、2022 年末現在、計 70 名である。

会長	寺田 朗子		
専務理事	ドミニク レギュイエ		
理事	アグネス G. キトリアーノ	常田 高志	ローラン デュボワ
	栗林 まどか	玉村 翔吾	守谷 慧
監事	君島 梨央	大竹 綾子	松浦 ちはる
	水野 太洋子		
名誉会長	宮尾 舜助		

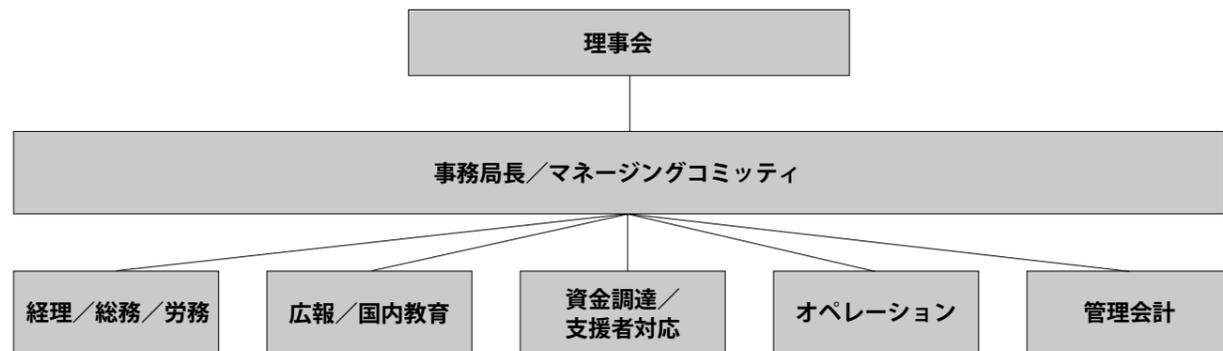
■東京事務局／海外派遣員／アルバイト／インターン／ボランティア■

東京事務局	マネージング コミッティ	大竹 綾子	清水 匡	松浦 ちはる
	職員	7 名		
	アルバイト	0 名		
	インターン	2 名		
	ボランティア	2 名 (常勤)、翻訳・校正・イベントボランティアの皆さま		
海外派遣員		2 名 (ヨルダン)	1 名 (パレスチナ)	
		3 名 (カンボジア)		

■マンスリーサポート／支援会員■

マンスリーサポート参加のべ件数	923 件
支援会員 (一般・学生)	141 名
法人正会員	1 社
法人賛助会員	1 社

組織図

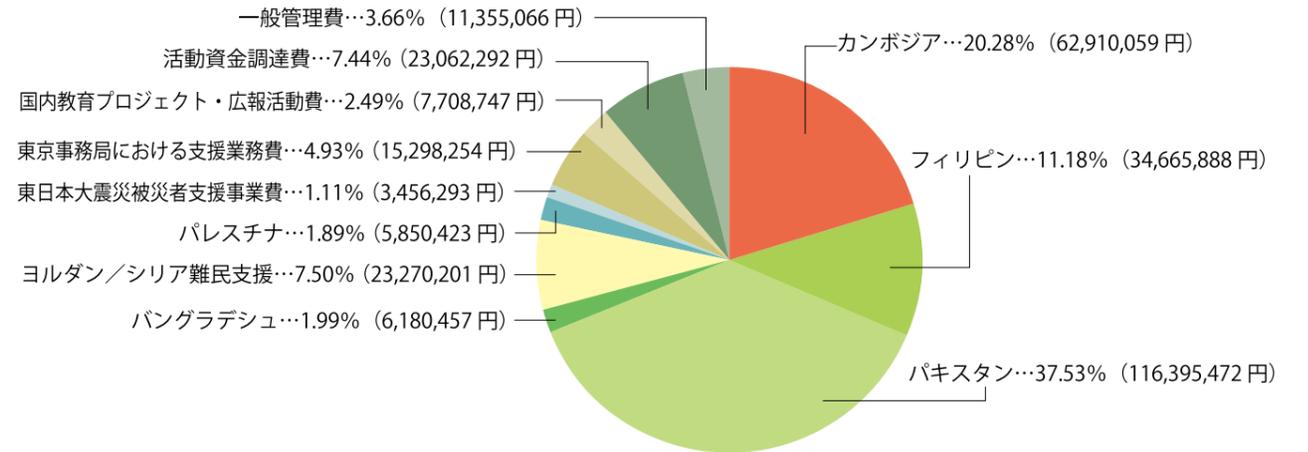


2022 年度収支報告

2022 年は、経常支出 310,153,152 円のうち、総援助事業費 (すなわち活動地における援助事業費 + 東京における事業実施運営費 + 国内教育プロジェクト費・広報活動費) が全体の 88.9% を占めた。

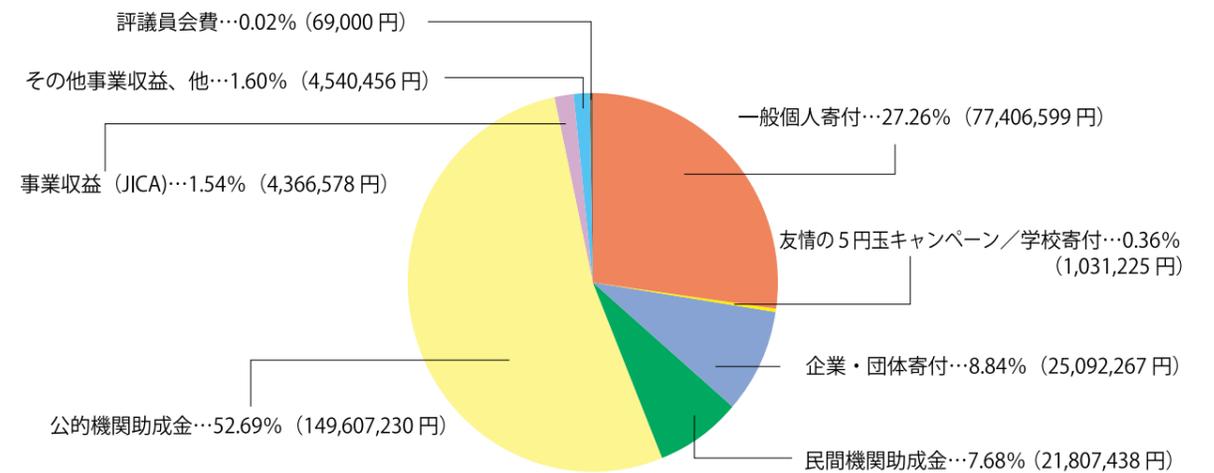
2022 年 経常支出の部

合計 310,153,152 円



2022 年 経常収入の部

合計 283,920,793 円



公認会計士の監査を受けた財務諸表は KnK ウェブサイト (<https://knk.or.jp/knk/account/>) で公開しております。また、郵送をご希望の方は事務局までご請求ください。



## 謝辞

国境なき子どもたちの2022年度における世界での活動および東日本大震災被災地での活動に対し、  
温かいご理解とご支援をお寄せくださいました皆さまに心より御礼申し上げます。



株式会社 UnByte



伊藤忠商事株式会社



癒しと温かな手の学校



エクスペディアグループ



KPMG コンサルティング株式会社



ジュニパーネットワークス株式会社



株式会社小学館



株式会社セーフティ&ベル



積水ハウスマッチングプログラムの会



ソフトバンク株式会社



株式会社タムラ製作所



株式会社タイソンスアンドカンパニー



株式会社 TETE BRANDING



寺田倉庫株式会社



株式会社トーハン



ブックオフコーポレーション株式会社



Bookcafe days



ビーブルポート株式会社



フレックス株式会社



株式会社ベル



ヘンケルジャパン株式会社  
シュワルツコフプロフェッショナル事業本部



未来シフト株式会社



ヤフー株式会社



リンベル株式会社

### 【法人正会員】

株式会社 UnByte

### 【法人賛助会員】

株式会社マジオネット

### 【企業の皆さま】

株式会社アイデム/アイデムフォトギャラリー「シリウス」/有限会社灯屋/アプライドマテリアルズジャパン株式会社  
株式会社アレッポの石鹸/株式会社一如社/株式会社イニユニック/有限会社エフアンドエム・インターナショナル  
金坂医院(千葉県)/株式会社高齢社/株式会社コパイロット/G.I.P.Tokyo/株式会社Just Do It/株式会社ジャックス  
株式会社 Building Face/株式会社フレックスインターナショナル/株式会社HELL OF HEAVEN/株式会社堀内カラー  
マナトレーディング株式会社/株式会社ミスター・パートナー/株式会社Mimコンサルティング/メイキットコープ株式会社  
株式会社メディカルドリームワークス/合同会社ワンアート、ほか

### 【個人の皆さま】

個人支援者の皆さま/マンスリーサポーター、一般支援会員、学生支援会員の皆さま  
国境なき子どもたち(KnK)事務局&イベント&翻訳ボランティアの皆さま/国境なき子どもたち(KnK)支援委員会の皆さま  
友情の5円玉キャンペーンにご参加くださった小中高生と一般の皆さま  
バレンタイン&ホワイトデー「+1」キャンペーン2022にご参加の皆さま  
国境なき子どもたち(KnK)主催・共催イベントにご参加の皆さま  
PASCAL MARIE DESMARAIS さま/安田菜津紀さま/佐藤慧さま/渡辺真理さま  
オリックス・バファローズ(2022年当時)の吉田正尚さまとSyncableを通じてご賛同の皆さま  
エクスペディアグループ社員の皆さま/KPMG コンサルティング株式会社社員の皆さま/株式会社ジャックス役職員の皆さま  
ジュニパーネットワークス株式会社社員の皆さま/ソフトバンク株式会社社員の皆さま/積水ハウスマッチングプログラムの会の皆さま  
ソフトバンク「つながる募金」ご参加の皆さま/ブックオフ「キモチと。」ご参加の皆さま/ヤフー募金ご参加の皆さま  
ZEROPC「想うプロジェクト」にご参加の皆さま、ほか

### 【学校教育関連機関の皆さま】

岩手県高等学校教職員組合/雙葉学園同窓会/雙葉小学校/雙葉小学校附属幼稚園/田園調布雙葉中学高等学校エリザベット会  
京都府亀岡市立育親中学校、亀岡中学校、東輝中学校、詳徳中学校、別院中学校、南桑中学校、大成中学校、亀岡川東学園の各生徒会  
大阪府吹田市立佐井寺中学校 生徒会/自由学園/頌栄女子学院/全国退職女性校長会(梅の実会)/普連土学園  
学校法人暁の星学園 鳴門聖母幼稚園/静岡県立焼津中央高等学校/ラ・サール学園、ほか

### 【民間機関の皆さま】

かみひとねっとわーく京都/国境なき子どもたち(KnK)支援委員会/特定非営利活動法人国際協力NGOセンター  
特定非営利活動法人国際支援活動協会/国際ソロプチミスト東京・広尾/特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム  
宗教法人真如苑/全国友の会/認定NPO法人 Dialogue for People/公益財団法人東京しごと財団/一般財団法人東京マラソン財団  
公益財団法人東京YWCA国際語学ボランティアズ(ILV)/高田松原商業開発協同組合「アバッセたかた」(岩手県陸前高田市)  
公益財団法人日本国際協力財団/一般社団法人日本弱酸性美容協会/一般財団法人ゆうちょ財団  
特定非営利活動法人ベースボール・レジェンド・ファウンデーション、ほか

### 【公的機関の皆さま】

日本国外務省/独立行政法人国際協力機構、ほか

お預かりした貴重なご寄付は、各地の青少年への教育・自立支援活動などに大切に使用させていただきます。  
世界における中長期的な活動に向けて、2023年以降も引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。  
なお、2022年3月をもって東日本大震災の復興支援に対するご寄付の受付を終了し、2022年中をもって支援活動を完了しました。  
これまで多くのご支援を賜り、誠にありがとうございました。

## 国境なき子どもたちの歩み

1995年当時の国境なき医師団日本事務局長ドミニク・レギュイエが、日本の子どもを海外に派遣するプログラム「子どもレポーター」をスタートさせました。その取材を通して現地で暮らす15歳以上の若者が支援を受けにくいことがわかり、貧困に苦しむ若者の自立を支援するために「国境なき子どもたち」を立ちあげました。2000年、カンボジアで初の自立支援施設「若者の家」を開設、ベトナムとフィリピンにも「若者の家」を立ちあげ、教育支援団体として歩み始めました。

その後、自然災害等の緊急事態においても子どもたちへの「教育」を最優先に考え、基礎教育のみならず、美術、音楽、遊びなどを通じて、子どもが健全に成長できるような支援を行っています。

1995年 KnKの前身となった教育プロジェクト「子どもレポーター」開始（のちに「友情のレポーター」と改称）

1997年 9月 **日本のNGOとして国境なき子どもたち（KnK）設立**

2000年 9月 カンボジアにて初の自主運営プロジェクト「若者の家」開設

10月 **特定非営利活動法人（NPO法人）として東京都に認証される**

2001年 1月 ベトナムにて「若者の家」開設（2008年3月終了）

11月 フィリピンにて「若者の家」開設

12月 フィリピンにて未成年収監者への支援開始

2002年 12月 フィリピンにてチルドレンセンターを開設

2003年 1月 カンボジアの刑務所にて未成年収監者への支援開始（2015年6月終了）

2004年 12月 **スマトラ島沖地震・インド洋大津波発生、調査・支援開始**（インド2010年6月、タイ2006年1月、インドネシア2006年6月に終了）

2005年 10月 パキスタン北部大地震で被災した青少年の支援開始

2006年 5月 インドネシア、ジャワ島中部地震で被災した青少年の支援開始（2013年2月終了）

10月 東ティモールにて紛争の影響を受けた青少年の支援開始（2012年2月終了）

2007年 5月 日本にてフェアトレードによるKnK活動支援を目的にKO&Co.合同会社を設立

7月 フィリピンにて現地法人「KnKフィリピン」を設立、カンボジアにて現地法人「KnKカンボジア」を設立

10月 ヨルダンにて青少年に対する支援開始（2014年12月終了）

2008年 1月 バングラデシュにてサイクロン「シドル」で被災した青少年の支援開始（2012年2月終了）

6月 ミャンマーにてサイクロン「ナルギス」で被災した青少年の支援開始（2013年12月終了）

2009年 9月 フィリピンにて大型台風の影響に対する緊急支援を開始（2010年1月終了）

2010年 1月 **国税庁長官より、認定NPO法人としての認定通知を受ける**

パキスタンにて2005年の大地震の影響を受けた校舎の再建を開始（2014年3月終了）

バングラデシュにて職業訓練修了者を対象にした協同組合を設立（2015年12月自立）

9月 パキスタンにて大洪水により被災した学校の再開支援を開始（2011年7月終了）

2011年 3月 **東日本大震災発生、被災地で緊急支援活動を開始**（2022年12月終了）

6月 岩手県にて事務所を開設（2016年4月開所）

9月 岩手県被災地にて公民館・コミュニティセンター再建・修復支援を開始

バングラデシュにてストリートチルドレンのための「ほほえみドロップインセンター」を開設

11月 パレスチナにて青少年育成事業を開始（2016年3月終了）

12月 岩手県にて移動型子どもセンター「走る！KnK子どもセンター」運行開始（2016年2月終了）

2012年 1月 福島県にて保育園へ「食」の支援開始（2013年3月終了）

11月 フランス、パリ事務所を開設（2017年12月開所）

2013年 3月 ヨルダン、ザアタリ難民キャンプにてシリア難民支援を開始

10月 カンボジアにて豪雨被災児に対する緊急支援を開始（同年11月終了）

11月 フィリピンにて大型台風「ハイエン」の被災児に対する緊急支援を開始（2014年12月終了）

2014年 3月 ヨルダンにてシリア難民青少年に対する学校教育の強化支援を開始（2018年3月終了）

7月 ミャンマーにて少数民族帰還民の青少年に対する学校修復支援を開始（2016年6月終了）

12月 東京都知事より、認定NPO法人としての認定通知を受ける

2015年 4月 イラクにて国内避難民支援を開始（2016年6月終了）

10月 ミャンマーにて洪水で被災した学校への緊急支援を開始（同年12月終了）

2016年 1月 バングラデシュにてインフォーマルセクターで働く青少年に対する職業訓練と労働環境改善支援を開始（2019年6月終了）

2017年 7月 **パキスタンにて学校環境整備と女子教育向上支援を開始**

9月 **KnK設立20周年**

11月 パレスチナにて公立学校と子ども支援センターの活動拡充支援を開始

2018年 6月 ヨルダンにて公立学校への特別活動導入プログラムを開始

2019年 12月 東京都により認定NPO法人としての認定更新を受ける

2020年 2月 カンボジアにて青少年への就労支援を開始

5～12月 **パキスタン、フィリピン、カンボジア、バングラデシュにて新型コロナウイルス禍の緊急支援を実施**

2021年 1～7月 **フィリピン、バングラデシュにて新型コロナウイルス禍の緊急支援を実施**

2022年 9月 **パキスタンにて大洪水被災者に対する緊急支援を開始**

### 1997 日本のNGOとして国境なき子どもたち（KnK）設立

### 2000 特定非営利活動法人（NPO法人）として東京都に認証される

カンボジアにて初の自立運営プロジェクト「若者の家」開設。

その後、活動国が3ヵ国（カンボジア、フィリピン、ベトナム）に増え、15歳以上の青少年に特化してプロジェクトを進める。

### 2004 自然災害における緊急支援活動

スマトラ沖大地震・津波発生を受け、インド、インドネシア、タイにおいて、15歳以上に限らず、被災した子どもたちに対して教育を意識した活動を行う。KnK初の緊急支援となる。その後、パキスタン北部地震、インドネシア・ジャワ島地震など自然災害における緊急支援活動を行う。

### 2006 紛争や戦争などの影響を受けた青少年支援を開始

騒乱により治安が悪化した東ティモールにて、行き場を失った若者にスポーツの機会を提供。KnKのスポーツ施設がピースセンターと呼ばれるようになった。その後、ヨルダンにて、イラク難民の子どもたちに音楽や美術などの機会を提供し、心的ケアにつながる活動を展開する。

### 2010 国税庁長官より、認定NPO法人としての認定通知を受ける

パキスタン北部地震やバングラデシュのサイクロン被害など緊急支援で活動を開始した地域でも中長期的なスパンで子どもたちが継続して教育を受けられるように支援を切替えていった。

### 2011 3月11日、東日本大震災発生、国内で初の緊急支援活動を開始



©Atsushi Shibuya

震災発生直後に調査を開始、その後岩手県沿岸で学校再開に必要な物資（ロッカー、教職員住宅、PC、スクールバス、制服など）を支援。陸前高田市で移動型子どもセンター を運行し、子どもの居場所を提供。釜石市に開設した事務所を拠点に、きめ細かい支援を行った。

### 2013 シリア難民に対する教育支援をヨルダンで開始

シリア危機により大量の難民が発生。ヨルダン北部に設営されたザアタリ難民キャンプには一時20万人もの難民が押し寄せた。KnKは難民キャンプの公立学校で音楽や美術などの授業の提供を開始した。

### 2017 女子教育向上を視野に

2005年に発生したパキスタン北部大地震で倒壊した学校再建事業により、山岳地域の子供就学率の低さがわかり、女子教育向上の支援を開始した。

### 2020～2021 新型コロナウイルスの猛威を受け、緊急支援活動を実施

全世界で大流行となった新型コロナウイルスにより、各国でロックダウンや学校閉鎖に陥り、貧困地域では日々の生活が脅かされ、マスクなどの衛生品を手に入れることもままならなかった。フィリピン、カンボジア、パキスタン、バングラデシュで緊急支援として衛生品や食料配布などを実施した。

### 2022 パキスタンで発生した大洪水被害を受けて緊急支援を開始

国土の1/3が浸水するなど甚大な被害を受けたパキスタンで、シェルター支援や衛生用品の配布を実施した。



## 【ご支援のお願い】

これからも子どもたちの尊い学びを支え続けてください。

※ KnK は東京都知事より認定を受けた「認定 NPO 法人」です。ご寄付は、確定申告により税控除を受けることができます。

<いろいろな支援の方法があります>

### ◎ マンスリーサポーター（毎月定額を自動引落し）

KnK マンスリーサポーターになってくださる方が増えますと、長期にわたり安定して子どもたちへの支援計画を立てられ、子どもたちが安心して学校に通い生活できます。KnK はマンスリーサポーターになってくださる方を心からお待ちしています。すでにマンスリーサポーターでいらっしゃる皆さまには、日頃のご支援に心より感謝申し上げます。この機会に増額をご検討いただけますと幸いです。

- ・ 月 1,000 円からご支援いただけます。
- ・ 金融機関からの自動振替により、お振込みの手間が省けます。
- ・ 右のマンスリーサポート申込書または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ クレジットカードからの自動振替をご希望の方は KnK ウェブサイト上でのみ受付けております。

### ◎ 支援会員（年 1 回のご納入）

年間を通じて、いつでもお振込みいただけます。年会費はすべてのご寄付と同様に KnK の支援活動費に充当されます。KnK に対する権利や義務を伴うものではありません。毎年継続の義務はございませんが、子どもたちに安定した支援を行うために、できましたら継続してお納めいただけますようお願いいたします。クレジットカードからは、毎年 1 回の自動継続振替を承ります。

一般会員 12,000 円      学生会員 5,000 円  
法人正会員 100,000 円      法人賛助会員 50,000 円

- ・ 本報告書に添付された郵便払込用紙または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ 法人会員につきましては、年次活動報告書やウェブサイトでお名前をご紹介させていただきます。

### ◎ 随時（単発）寄付

ご都合のよい時に、任意の金額でいつでもご支援いただけます。右の振込手数料など免除の口座宛の郵便払込用紙でゆうちょ銀行の窓口から、または KnK ウェブサイトでクレジットカードからお申込みください。右の QR コードをスマートフォンやタブレットのカメラで読み取ると KnK ウェブサイトが表示されます。



knk.or.jp

### ◎ 遺贈・相続財産からの寄付

大切な方やご自身の遺産を、困難な状況にある子どもたちの未来にお役立てください。遺贈とは、遺言により財産のすべて、もしくは一部を無償で譲与するもので（民法 964 条）、相続財産からのご寄付と共に相続税の課税対象から除外されます。遺贈について詳しく説明したパンフレットがございますので、KnK 東京事務局へご請求ください。



遺贈パンフレット

【支援に関するお問い合わせ先】

サポーター専用 TEL : 03-6279-1128（平日 10:00 から 18:00） メール : shien@knk.or.jp

## 「マンスリーサポート」申込書

のりしろ

※ご住所	〒 <input type="text"/>			※印は必須項目			<b>「マンスリーサポート」に参加します</b> <input type="checkbox"/> 毎月 <b>1,000</b> 円 (50 円×20 日) <input type="checkbox"/> 毎月 <b>1,500</b> 円 (50 円×30 日) <input type="checkbox"/> 毎月 <b>3,000</b> 円 (50 円×30 日×2 口) <input type="checkbox"/> 毎月 _____ 円 (任意のご支援額)					
※お名前	フリガナ <input type="text"/>											
※お電話	( <input type="text"/> ) <input type="text"/> - <input type="text"/>											
アドレ	<input type="text"/> @ <input type="text"/>			性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性						

「マンスリーサポート」にぜひご参加ください。便利な **口座振替** をご利用いただけます。①民間金融機関または②ゆうちょ銀行をお選びください。国境なき子どもたち (KnK) へのご寄付は **寄付金控除の対象** となり、確定申告により **税制上の優遇措置** を受けられます。「マンスリーサポート」の受領書は毎年 2 月第 1 週に前年分の寄付をまとめてお送りいたします。この用紙を切り取り、のりしろで貼り合わせると封筒になります。切手は不要です。

### 預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書 (収・加) AR23

① 民間金融機関				② ゆうちょ銀行			
金融機関コード	<input type="text"/>	支店コード	<input type="text"/>	種目コード	契約種別コード	記号 (※欄にご記入ください)	番号 (右詰めでご記入ください)
	フリガナ <input type="text"/>			1 6 6	3 0 1	0	
預金種目	1. 普通 (総合) 2. 当座	口座番号 (右詰めでお書きください)	<input type="text"/>	払込先口座番号	00120-2-727950	払込先加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

口座名義人	フリガナ <input type="text"/>	お届印	<input type="checkbox"/>
-------	---------------------------	-----	--------------------------

- ◆ 振替・払込日は毎月 27 日 (土日祝日の場合は翌営業日) ◆ ネット銀行などで届印がない場合は  してください →  届印なし (捨印)
- ◆ 自動振替は変更・停止のご連絡がない限り、2 年目以降も継続させていただきます。マンスリーサポートの変更・停止は国境なき子どもたちまでご連絡ください。(ゆうちょ銀行を除く)
- ◆ 皆さまの個人情報は厳重に管理し、国境なき子どもたちからの活動状況のお知らせなどの目的にのみ使用し、第三者への個人情報開示は行いません。国境なき子どもたちの個人情報保護方針は、ウェブサイトからご覧いただけます。knk.or.jp/privacy

不備がありましたら、右記該当箇所○印をつけて下記にご返送ください。	顧客番号	313834	検印	<input type="checkbox"/>	印鑑照合	<input type="checkbox"/>	受付印	<input type="checkbox"/>
※民間金融機関の場合 〒804-0067 福岡県北九州市戸畑区 汐井町1-6 ウェルとは株式会社TMJ9階 株式会社ジャックス 口座振替係宛	※ゆうちょ銀行の自動払込の場合 〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22 特定非営利活動法人国境なき子どもたち 株式会社ジャックス	委託者名 特定非営利活動法人国境なき子どもたち	収納会社 株式会社ジャックス	1. 印鑑相違 2. 印鑑不鮮明 3. 預金種目相違 4. 口座番号相違 5. 右義人相違	6. 預金取引なし 7. 支店名相違 8. その他 ( )	(備考)		

のりしろ (上端と貼り合わせてください)

## 随時のご寄付

99	払込取扱票										
口座記号番号											
0	0	1	9	0	2	3	6	4	9	4	6
金額											
料金											
備考 免											
加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち										
ご依頼人・通信欄	おところ・おなまえ (郵便番号 - ) AR23 □受領書不要 (電話番号 - ) 生年 西暦 _____ 年 ◆世界各地で助けを必要とする青少年の教育支援・生活支援のために寄付します。 <input type="checkbox"/> 12,000 円 <input type="checkbox"/> 9,000 円 <input type="checkbox"/> 6,000 円 <input type="checkbox"/> _____ 円 (任意のご支援額) ◆国境なき子どもたちの支援会員 / 法人会員として年会費を納入します。 <input type="checkbox"/> 一般 12,000 円 <input type="checkbox"/> 学生 5,000 円 <input type="checkbox"/> 法人正会員 10 万円 <input type="checkbox"/> 法人賛助会員 5 万円 メールアドレス (メールマガジンをお届けします) @ <input type="text"/>										
日附	<input type="text"/>										
印	<input type="text"/>										

ご依頼人欄に、おところ・おなまえをご記入ください。(承認番号 第62489号) これより下部には何も記入しないでください。

この用紙でのお払込には手数料がかかりません。認定 NPO 法人国境なき子どもたちへのご寄付は、寄付金控除等の税制優遇を受けられます。また、

## 振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0 0 1 9 0 2										
加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち										
金額	3 6 4 9 4 6										
ご依頼人	おなまえ <input type="text"/>										
料金	(消費税込み) 日 附 印										
備考	様										

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。切り取らないでください。

この受領証は、大切に保管してください。





# Growing Together

認定NPO法人 国境なき子どもたち (KnK)  
東京事務局: 〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22  
TEL: 03-6279-1126 (代表) / 03-6279-1128 (サポーター窓口)  
FAX: 03-6279-1127 / E-mail: [kodomo@knk.or.jp](mailto:kodomo@knk.or.jp) / URL: [knk.or.jp](http://knk.or.jp)

